



校長つうしん No.17



2017.3.23

鈴木 恵一

## プレゼンテーション大会を終えて

## ～ 誰もが presenter ～

3月18日（土）・21日（火）の2日間、生徒の皆さん、感動をありがとう！ オープニングとクロージングで「純度の高い贈り物（present）」という話や「糸」について話をしました。

講評なんておこがましい、私の気持ちを伝えたいと思うあまり、下手くそな「糸」を歌ってしまったことを深く反省しています。次は練習して臨みます……いや、やめときます。



1年間の学びの成果を「発表し、共有し、励まし合う」というテーマのもと、生徒も教員もすべての参加者が純度の高い贈り物を交換し合うことができたと感じました。ことばや画像・映像、芸術、文芸、身体表現等々を介して自己の学びを捉え返すことができたはずで、出来、不出来があっても当然、失敗も当然。積極的に参加できなかったという後ろめたさを抱いた人もいたことでしょう。そう思うことも含めて、「自己と向き合うこと」「気づき」が大切なのです。

開校9年目を終えようとしているいま、プレゼン大会は、まさに大通高校ならではの財産として大きく成長しました。“糸へん”の話もしましたね。人と人との「繋がり」は目に見えない不思議な「縁（えん、えにし）」「結び」で「紡がれる」。私はいろいろな糸の紡ぎ方があることを再認識しました。生徒、教職員、保護者の皆様とのつながりだけではなく、直接会場へ足を運んでくださった、ちえりあの職員の方々、ちえりあ講座の受講者と指導者の方々、中央幼稚園の園児と先生、日頃からご支援くださっている個人、企業、NPO法人、教育委員会の皆様に感謝申し上げます。

主役である生徒のあなたには、これからも、しなやかでたおやかな布を織りなしてほしい、そう思います。お疲れ様でした、そして素敵な贈り物をありがとう！

## ことば ~ わかりづらい時代 ~

「<sup>いしんでんしん</sup>以心伝心」「一を聞いて十を知る」といった言葉がありますが、実際のところ、私たちは他者の発する言葉をどれだけ理解しているのだろう、ふとそう感じる場合があります。単文投稿の SNS の普及によって、言葉の使い方が大きく変化しています。いつの時代も若者は独特の表現を生み出し、大人は<sup>まゆ</sup>眉をひそめて批判するという構図があります。

ここ数年のことでいえば、「ディスる」(disrespect: <sup>けいへつ</sup>軽蔑する、<sup>ぶじやく</sup>侮辱する)があります。ネット上では当たり前のように使われていますが、流行りだした頃、私のようなおじさんには意味不明でした。

考えてみれば、古くからあり今もよく使われている「ダブる」「サボる」も日本語ではありません。「ハモる」や「ミスる」「ネグる」というのもそうでしょう。「トラブル」……これはいいですね。でも、「トラブった」と、あえて日本語と合成し動詞にするというのは案外多いのかもかもしれません。日本語が<sup>ほうかい</sup>崩壊するなどと、いちいち目くじらを立てていても仕方ない、言葉は時代と共に変化していくものと思う一方で、やはり教育(学校)は正しい日本語をしっかりと学ばせなければいけないという思いもあります。

進路に関連した話ですが、最近は大学や専門学校の学部や学科の名称も非常に分かりづらくなってきたなと感じています。「総合文化政策」「人間システム工学」「コミュニティ福祉」「グローバルエンジニアリング」「マネジメントサイエンス」「リベラルアーツ」……

具体的に何を学ぶのか、学部・学科の説明をよく読まないとわかりません。カリキュラム上の科目名まで意味不明で、これもシラバスをよく読まないとわからない。名称だけでは学びたい内容が見えてこないことについては、戦略上(イメージ戦略?)のこともあって意見の分かれるところかもしれません。

それにしても、私たちは言語で理解し思考する生き物です。ビジネス界、特定業界独特の言い回しや、<sup>せくご</sup>俗語があったり、国によって<sup>どうおんいぎご</sup>同音異義語、<sup>どうおんたぎご</sup>同音多義語が多かったり、それぞれに特徴があります。言葉に対する共通認識はとても大切なことだと思います。込み入った話をするときには「ことばを合わせる」ことがとても大切です。誤解やすれ違いを生まないためにも、できるだけ難しい言葉を使わないこと、自分勝手な言い回しをしないことが求められます。

友達と共通認識を持っていると思って使っていた言葉が、案外、認識がずれているということはありませんか? 人生において、ひとつひとつの言葉をどう活用してきたか、どんな経験をして、どんな結果を得たかによって、まったく異なるイメージが形成されます。

「努力」という言葉をイメージしてみてください。あなたにとって、努力するとはどういうことで、どれほどエネルギーを注ぐことなのか。考えてみると、非常に抽象的でこれほど個人差のあるものもないだろうと思うのです。そう考えると、お互いが理解し合うためには、どんなことが必要か、何が大切か、考える余地が大いにあるような気がしてなりません。

